



3月22日

青山ゆたか

当初予算

総括質疑

今任期から3月定例会において、「当初予算総括審議」が予算決算委員会で行われることとなりました。青山ゆたかも登壇し、市当局と議論を交わしました。

応援人口について

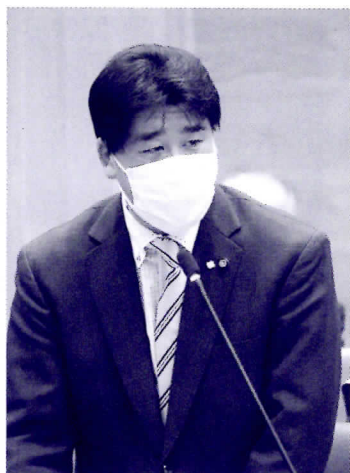
●応援人口との関係深化事業

質問 来年度の取組について伺う。

答弁 なべっこ遠足in東京、東北大学との共同研究を行う。共同研究で提案された施策は令和5年度以降の事業に反映させたい。

質問 応援人口と一緒にまちづくりをしていくのが、施策の目標。しかし、市民の認知度、理解度は進んでいないと感じる。市ではどう認識しているか？

答弁 あまり周知されていないと思う。



質問 来年度の取組で採り入れてほしいのが「市民参画・市民参加」。それによって、市民の認知度、理解度を広げる仕組みをつくれな

答弁 良い提案だ。前向きに検討したい。

質問 応援人口（横手応援市民）の大半がふるさと納税をしていた方と聞いている。しかし、ふるさと納税の使い道を知っている市民は少ないと感じる。もっと伝える努力、工夫をすべきだ。

答弁 今は市HPとよこてfun通信に使い道を掲載しているが、市報に載せるなどしていきたい。

●よこてfun通信UNSYN

質問 来年度の取組について伺う。

答弁 引き続き、年4回の発行を通じてさらなる応援人口の獲得と関係強化を図る。モバイルコンテンツや動画などとの連動を考えている。

質問 fun通信も市民の認知度を上げる必要があると思うが、その重要性についてどう認識しているか？

答弁 認知度はまだまだ高くない。応援人口を拡大していくためには、市民の認知度を上げながら声かけをしていただくのが有効な手段だと思う。（fun通信は）市内の公共施設に設置しているし、今春に高校を卒業する方々向けにチラシを作成した。市民の目に触れるような取組をしていきたい。

質問 小中学校にも置かれているが、学校教育の中で活用されているか？

答弁 例えば、「山下太郎特集」の時には大森小学校で地元の偉人コーナーをつくり、子ども

たちの理解に努めた。教科書には書いていない魅力的な資料のひとつとして活用している。

質問 公共施設だけでなく、民間の人が集まる施設、滞在時間の長い施設に置くことも必要だ。

答弁 その通りだ。事業の目的と効果について、有効と思われるところを探りながら検討していきたい。

●横手応援拠点UNSYN

質問 来年度の取組について伺う。

答弁 県外における応援人口の交流拠点とすべく、横手市出身者が経営する飲食店に協力いただく。首都圏・仙台圏中心に10店舗の登録を目指す。

質問 新型コロナウイルスの収束が不透明な中で目標を達成しなければならぬ。担当部署が直接行けないという難しさを考慮に入れた場合、現地に住んでいる応援人口にある程度のところまで交渉していただくという仕組みをつくることは可能か？

答弁 担当部署が訪問することが基本だと思ふ。しかし、（新型コロナウイルスの）状況に応じて、また将来的には全国各地に広げたいので、物理的に訪問するのが難しい場合は今の提案を考慮に入れて進めていきたい。



▲よこてfun通信